

会員だより

情報化施工講習会を終えて!

4月21日(木)、弊社施工中の「平成27年度港川地区改良工事」現場において、『平成28年度沖縄総合事務局開発建設部情報化施工講習会』が開催されました。

内容としては① i-Construction について沖縄総合事務局平良技術検査官より説明があり、②情報化施工技術を活用した現場施工「GNSSを用いたブルドーザによる敷き均し、振動ローラによる締固め」技術について当現場より説明、③実演を行いました。



多くの技術員が関心を持って参加!

会員だより

QRP工法による舗装施工を実施!

会員の皆様、毎日お疲れ様です。今回は、宜野湾市の国道330号線我如古交差点における慢性的渋滞を解消させる工事(右折専用レーン設置)で、従来工法と異なって採用されたQRP工法(Quick Repair Pavement)を簡単に説明させて頂きます。

工事のフローチャート

規制開始
車道部予備掘削 (t=20cm)
道路土工 (磁気探査含む)
路床整正、下層路盤 (t=15cm) の施工
大粒径 (QRP工法) 1層目 (t=16cm) の施工
大粒径 (QRP工法) 2層目 (t=15cm) の施工
段差摺付
仮区画線の施工
規制解除

株式会社 大米建設 代表取締役社長 仲本 靖彦



現場での実演を見つめる!

労働力不足時代へ変化が起こりつつあるなか、建設現場の生産向上についての取組みとして関心度は高く、多くの方々(120名)が参加されました。従来施工と比較して、丁張りの設置作業や確認作業が省略化でき、作業の効率化が図られ、安全性も向上する等のメリットはあるものの機械調達等の課題もあると感じてはいますが、ICT(情報通信技術)を活用することにより、魅力ある建設現場になっていくであろうと期待しつつ、今後も努力し励みたいと思います。

【監理技術者 大城 一隆】

大成ロテック 株式会社 沖縄事業所所長 奥野 雅巳

当工法(打換工事)が採用され区間は、国道330号線我如古交差点~中部商業前交差点の間で、1回当たりの規制時間は金曜日の22時30分から月曜日6時までの55.5時間、計6回に渡って作業を行いました。工事のフローチャートは左記の通りです。

今回の工事において特に留意した点は、施工面ではリソース(労働者・重機・材料)の確保で、品質面では、規制解除時の路面温度でした。当工事の完了後、我如古交差点付近の慢性的な渋滞は解消され、特に近隣住民の方々には喜んで頂いております。このような地域の問題を解決するインフラ整備に参画できた事を誇りに思います。



完成! 渋滞無し!



中央部に約1mの段差

活動報告・トピックス



①第116回 道路美化・清掃活動

梅雨、間近も好天に恵まれる!

4月19日(火)に、14社、18名の参加者で第116回道路美化清掃活動を行いました。曇り空で暑くなく活動にはもってこいのいい天気となりましたが、終わり頃には、気温も上がり汗ばむほどで、



拾い集めたゴミ袋の前で記念撮影

吹き出す汗を拭いながら活動を終了しました。

熊本・大分震災、またもや被害甚大!!

四月に入り新年度に替わって、新たな気持ちで出立や入学式を迎えた人も多かったでしょう。4月14日未明に起こった熊本震災は、そんな浮き浮きした気分を吹き飛ばすほどの大きな被害を与えました。東日本大震災から5年が過ぎた矢先に、これほどの大地震に見舞われるとは思ひもありませんでした。災害は忘れた頃にやってくると言いますが、忘れもしないうちにすぐさまやってきた感じです。

14日はマグニチュード6.5の前震で、その二日後の16日にはマグニチュード7.3の本震という大規模地震が立て続けに起きました。この地震で熊本のシンボル熊本城(写真1)は石垣の一部が崩壊、瓦が全て落ちるなど大きな損傷を受け、205年の阿蘇大橋(写真2)も落橋し至る所で山肌が大規模な崩壊を起こすなど、被害は広がっています。家屋の全壊は2千棟に及び、倒壊しないまでも、被災した建物の応急手当判定で倒壊の「危険」とされた物件が熊本市内で8千417棟となり、阪神大震災の6千476棟を大幅に上回っています。14日から始まり28日まで2週間たって、余震は1千回を超えなお続き被災者は不安な日々を送っています。家屋を失って避難所に身を寄せる人、危険と判定された家屋に戻ることが出来ず、臨時の避難所や車中泊を続ける住民も多数に上り、今なお3万7千人が避難生活を余儀なくされています。狭い避難所暮らし、車中生活でエコノミークラス症候群と診断された人も97人以上おり、一人が亡くなっています。

全国各地から物資や義援金を送られ、他府県からも救助隊が支援のために現地入りしています。大型連休に入り、全国各地からボランティアに

熊本城(写真1)



今月の予定

- ①第1回安全委員会 支部会議室
5月6日(金)11:00~13:00
- ②第1回技術・積算委員会 支部会議室
5月10日(火)11:00~13:00
- ③第1回企画・広報委員会 支部会議室
5月20日(火)11:00~13:00
- ④第117回 道路美化・清掃活動
後半グループ 5月17日(火)10:00~
- ⑤第38回定時総会
5月26日(木)15:30~16:30
場所:ザ・ナハテラス3階ユウナ

参加する人々が大勢駆けつけている様子がテレビでは映し出されています。多くの皆さまの暖かい支援の輪で一日も早い復旧・復興が成されることをお祈りします。



崩落した阿蘇大橋(写真2)



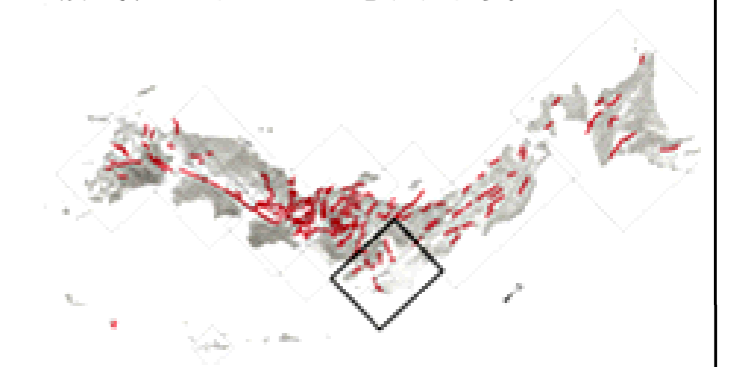
不安な夜を過ごす避難者

それにしても、日本が有数の地震国であることを、またもや見せつけられることとなりました。下記の日本地図上には無数の活断層が幾筋にも渡って延びています。私たち住民の生活は、その真上にあるといえ、いつ震災被害に遭遇しないとも言いきれません。

倒壊した家屋は古い耐震基準で建てられた、住宅が多いとされていますが、新しい耐震基準で建てた家も倒壊が

数多く見られます。震度5程度の余震が続いたためともいわれます。道路や鉄道など交通インフラは寸断され、復旧には10日近くかかりました。

いつ起こるか分からない災害から逃れるため、身の回りに気を配り、もしもの時にどう対処したらいいか、常日頃から備えておくことが被害を最小限に抑える手立てかと思われま



日本の活断層(赤い部分)分布図

【編集室 N・S 文章中の数字は4月28日時点です。】